

待望の認知症治療薬

高く澄みきった空に、心も晴れ晴れとする季節がやってきましたが、私は残暑のせいでボーッとして、ついつい忘れていたことなどを思い出していたところ。そんな中、先日アルツハイマー型認知症の新しい治療薬の承認に関するニュースを耳にしました。

認知症は加齢とともに

に、誰でも起こりうる病気です。通常の物忘れではなく、脳の病気や障害などのさまざまな原因で認知機能が低下して日常生活に支障が出てきます。そんな認知症の治療薬アデュカヌマブ（商品名アデュヘルム）が米国FDAで迅速承認されて話題となっています。

アルツハイマー型認知

症は脳内にアミロイドβというタンパク質がたまって神経細胞を壊すため起こると考えられており、そこに着目して開発が進められました。米国で承認された治療薬は日

本の製薬会社エーザイと米国の製薬会社バイオジェンにより創薬され、脳内のアミロイドに結合し体内の免疫の力を利用して効果を発揮するとされています。この効果が発揮できれば、まさに「夢



の薬」です。

ただし今回の米国での承認は仮の承認で、効果が確認できなければ取り消される可能性もあります。日本でも現在、申請はされているものの承認

はまだ下りておらず、発売されるにはもう少し時間がかかるようです。またバイオテクノロジーを駆使した画期的な治療薬としての承認になっているため、それに掛かるお薬代は1人当たり年間約600万円といわれており、医療費が切迫している日本では現実的か否かわわれるところです。

とはいえ待ち望まれた「夢の薬」であることは事実。今後の動向を想像しながら、秋の夜長を虫の音色を枕に過ごしてみたいかがでしうか。

（薬剤師 西 美香）

薬話
やまやま

[70]

松阪地区薬剤師会